

特集：ミカンキイロアザミウマ〔1〕

わが国における発生経緯と発生分布

農林水産省横浜植物防疫所 **佐 伯 いさむ** 勇

はじめに

ミカンキイロアザミウマ *Frankliniella occidentalis* (PERGANDE) はアメリカ合衆国、カナダ、メキシコ、ヨーロッパ、ニュージーランド、南アフリカなどに分布している。

本種は Western flower thrips と呼ばれ、花きの重要害虫として知られているが、防除の困難性から特に問題となっているアザミウマである。

寄主植物の範囲は広く、海外の文献によると、花きのほかアスパラガス、イチゴ、キャベツ、ジャガイモ、トマト、メロン、マメ類、サフラワー、ワタ、ブドウ、カンキツ、リンゴ、ネクタリン、モモ、プラム、ルーサンなど少なくとも 50 科 200 種以上が記録されている。

本種がミカンキイロアザミウマと命名された経緯は定かではないが、輸入植物検疫の記録によると、日本が輸入検疫を開始した翌年の大正 4 年 (1915 年) にアメリカ合衆国サンフランシスコ港から横浜港に輸入されたカンキツ果実から本種が発見されており、これが日本における最も古い発見記録と思われる。また、同記録によると、本種はカリフォルニア州におけるカンキツの害虫の中で最も恐るべきものとされている。

本種による被害は、成虫・幼虫ともに鋭い口器で植物の花、葉、若芽から吸汁するために生じる。花ではカスリ症状・奇形、葉では奇形・シルバリング・白斑、若芽では褐変・萎縮、果実では褐変・幼果の白ぶくれ症状などが国内の発生地から報告されている。

また、本種はトマト黄化えそウイルス (TSWV) のベクターであり、直接の被害とともに本ウイルスのまん延が各地で大きな問題となっている。

I 発生経緯

1990 年 6 月、千葉県および埼玉県の花き栽培農家のシクラメン、インパチェンス、ガーベラから種名不詳のアザミウマが発見され、両県の病虫害防除所が東京農業大学昆虫学研究所の岡島秀治博士に同定を依頼したとこ

ろ、わが国未記録のミカンキイロアザミウマであることが確認され、同年 9 月に病虫害発生予察特殊報が発表された。その後、両県が発生地周辺の植物について寄主調査を実施したところ、ゼラニウム、マツバギク、ヤグルマソウ、フヨウ、クレマチス、カーネーション、ニチニチソウ、トマトおよびシトウに本種の寄生を認めた。寄生部位は花器 (蕾を含む) に集中しており、他の部位への寄生はほとんど見られなかった。また、花の色では濃色より花粉量の多い淡色系に寄生が多かった。

初発生の後しばらく新たな発生はなかったが、2 年後の 1992 年 6 月、静岡県内のハウスミカン、キク、ガーベラなどから発見され、調査の結果、同県内約 120 ha で発生が確認された。

II 分布の拡大

1990 年にわが国初発生が確認されて以来、3 年間は千葉、埼玉、静岡および岐阜の 4 県のみで発生していたが、93 年以降急速に分布を拡大した。都道府県で重要な病虫害の発生が確認された場合、病虫害発生予察特殊報が発表されるが、それによると 93 年には茨城、愛知、高知ほか 4 都県、94 年には山形、長野、宮崎ほか 10 府県、95 年には岩手、石川、鹿児島ほか 12 府県で発表され、96 年には合計で 41 都道府県となった (図-1 参照)。

約 4 年間で日本全域に拡大した理由としては、本種の

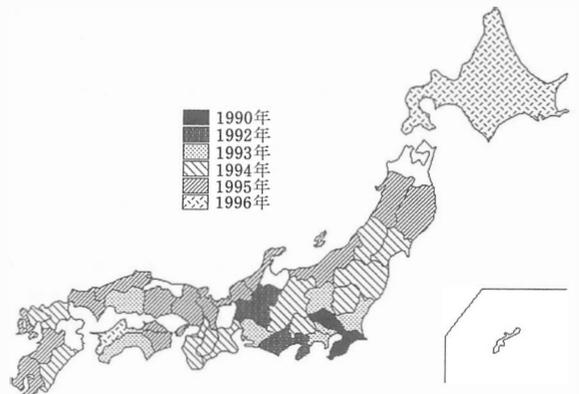


図-1 ミカンキイロアザミウマの年次別発生拡大図
各県の病虫害発生予察特殊報から作成 (1998年2月1日時点)

Circumstances of Occurrence and Distribution of Western Flower Thrips in Japan. By Isamu SAEKI

(キーワード：ミカンキイロアザミウマ，発生経緯，発生分布)

寄主範囲が広く、花き・野菜類の多種類に及ぶこと、これら栽培植物の苗が広範囲に流通していること、施設栽培が多く、温度の影響を受けにくいことなどがあげられる。また、本種は欧米では難防除害虫とされており、一般的な殺虫剤の同時防除では効果が少ないことも拡大の一因となっている。

侵入病害虫は侵入先の気候条件などに適合した場合、新天地において急速に分布を拡大することが知られており、本種もその具体例の一つと言える。

作物別の被害状況は、農産園芸局植物防疫課のとりま

とめによると、キクの被害が大きく、次いでナス、続いてピーマン、トマト、キュウリの順になっている。また、果樹では、ブドウ、ミカンに被害が目立っている。

地域別では、関東、東海、近畿地方に被害が大きく、また、花き、野菜は施設栽培が多いため、施設内の被害も大きくなっている。

引用文献

- 1) 早瀬 猛・福田 寛 (1991): 植物防疫 45: 59~61.
- 2) 片山晴喜・多々良明夫 (1994): 同上 48: 502~504.
- 3) 多々良明夫・古橋嘉一 (1993): 同上 47: 110~111.
- 4) 土屋雅利ら (1992): 同上 46: 437.

人事消息

(2月28日付)

李 度鎮氏 (農業研究センター耕地利用部水田雑草研) は退職

(3月1日付)

中村和雄氏 (農業研究センター総合研究官) は退職

太田 顯氏 (草地試験場生態部長) は退職

氏家 武氏 (果樹試験場保護部長) は退職

川嶋浩二氏 (国際農林水産業研究センター生産利用部長) は退職

仲谷紀男氏 (農業研究センター土壌肥料部長) は農研センター総合研究官に

清水矩宏氏 (農業環境技術研究所環境生物部植生管理科) は草地試験場生態部長に

工藤 晟氏 (果樹試験場カンキツ部カンキツ研究官) は同場保護部長に

小野祐幸氏 (果樹試験場カンキツ部上席研究官) は同場カンキツ部カンキツ研究官に

野口明德氏 (国際農林水産業研究センター海外情報部国際研究情報官) は同センター生産利用部長に

芦原 亘氏 (果樹試験場カンキツ部虫害研究室長) は同場カンキツ部上席研究官に

愛知県農業総合試験場園芸研究所内海ほ場は、平成10年3月31日をもって業務を終了し、園芸研究所蒲郡支所に一本化された。

科研製薬株式会社は、下記へ移転し、平成10年3月16日より新住所で業務を開始した。

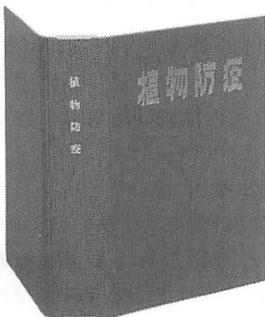
新住所 〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28番8号 文京グリーンコート センターオフィス

電話番号 (ダイヤルイン) 03-5977-5001 (総務部), 5032 特薬部特薬開発課

訂正

3月号の4ページ(「稲害虫管理の現状と課題」, 平井一男氏著)の図-6(ウンカ類の予察灯への飛来数)につきまして、著者より訂正のお申し出がありましたので、縦軸の単位を“ha”から“頭”に訂正させていただきます。

便利にご利用いただけます。『植物防疫』専用合本ファイル



本誌1年分(12冊)が簡単に製本できます。

〈本誌名金文字〉

本体 699 円(税別)

送料 390 円

- 書棚を飾る美しい外観
- 冊誌を傷めず保存ができる
- 取り外しが簡単にできる
- ビニールクロスで長期保存ができる

ご希望の方は、現金・郵便振替で直接本会へお申し込み下さい